

新型コロナ感染急増、サイクロン被災 バングラの現状

学生が発信

国際協力などを学ぶ県内外の大学・大学院生らの団体「KOLPONA(コルポナ)」が、新型コロナウィルス感染拡大の影響を受けたバングラデシュの現状を知ってもらおうと情報発信に取り組んでいる。

コルポナは今年3月、広島大学院の田中志歩さん(26)、名古屋大学院の綿貫竜史さん(26)、静岡文化芸術大の稲川望さん(22)、松本真吏さん(23)が設立した。当初は

静岡文化芸術大生ら 支援募る

況などを紹介している。厚生労働省の集計によると、同国の感染者数は10万人を超え、急増国の一つに挙げられる。6月上旬には、現地滞在中の田中さんがビデオ会議で「家族の食事が買えない人もいる」「自分の住む地域を越えようとすると、行き先を細かく尋ねられる」と現状を伝えた。田中さんらによると、5月には同国南部を巨大サイクロンが襲い、コロナ禍での避難所生活を強いられている人も多いう。

6月中旬からは、貧困層への衛生教育やサイクロン被災者の生活再建支

バングラデシュへの支援を呼び掛けるチラシを手にするコルポナの稲川さん=浜松市中区



援などに充てる寄付を募り始めた。3度の渡航経験がある稲川さんは「助け合いの文化が強く、おせっかいなくらい話しかけてくれる人柄が魅力。国内も大変な状況ではあるが、何か支援をしたい」と話す。

寄付の問い合わせはメールで、コルポナへ konna.bj@gmail.com へ。
(浜松総局・土屋咲花)